SINKO

Instruction Manual
取扱説明書

作業台（アジャスト付）

作業台（キャスター付）

システム作業台（アジャスト付）

システム作業台（キャスター付）

●このたびは、製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
●製品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前にこの
取扱説明書をよくお読みになり充分に理解してください。
●お読みになったあとはいつも手元においてご使用ください。

Index

安全上のご注意 ……1
お使いになる前に ……1
表面保護フィルムについて ……1
作業台の各部の名前 ……2
作業台の構成パーツと標準付属品 ……2
システム作業台の各部の名前 ……3
システム作業台の構成パーツと標準付属品 ……3
作業台（引出なしの機種）およびシステム作業台下部の組み立てかた ……4～5
システム作業台上部（上部棚部分）の組み立てかた ……6～7
作業台（引出付の機種）の組み立てかた ……8～9
作業台の耐荷重について ……10
システム作業台の耐荷重について ……11

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」・「注意」に区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠ 警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

⚠ 注意 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

絵表示の例

⚠	△記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。
⃠	⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は一般的な禁止）が描かれています。
❗	●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な指示内容（左図の場合は一般的な指示）が描かれています。

お使いになる前に

確認・点検

- 製品がお手元に届きましたら、型式、寸法、仕様などがご注文通りのものかご確認ください。
- 構成パーツ・付属品およびオプションの欠品はないかご確認ください。
- 輸送中の破損箇所等がないか点検してください。

お願い

- お取り扱いの際には、製品を傷つけたり、破損したりしないように充分ご注意ください。
- 雨や水のかかる場所に製品を放置しないようにしてください。
- 酸性の液体、塩分、洗剤原液が付着しないようにしてください。
- 潮風や海水のあたる場所には設置しないでください。
- 製品の汚れはすぐに拭き取ってください。放置するとサビの原因になります。

⚠ 警告

上乗り禁止

●製品の上に乗らないこと
ケガの原因になります。

⚠ 注意

移動禁止

●上部棚に物を載せたまま移動させないこと（システム作業台）
製品の転倒や積載物落下によるケガの原因になります。

過積載禁止

●天板や棚に物を載せ過ぎないこと
耐荷重の範囲を超える積載は、製品破損や積載物落下によるケガの原因になります。（10〜11ページの「耐荷重について」参照）

改造禁止

●不当な改造をしないこと
不当な改造や指定以外の部品使用は製品破損等によるケガの原因になります。

高温低温禁止

●高温、低温になる物のそばに設置しないこと
やけどや凍傷、樹脂部品の変形・損傷の原因になります。

ストッパー

●キャスター付の製品は、使用時に全てのストッパーをONにすること
ストッパーがはずれていると、製品の転倒や積載物落下などの原因になります。

専門業者

●設置工事はお買い上げ店または専門業者に依頼すること
ご自分で設置工事をされ不備があると製品の転倒や落下などの原因になります。

軍手着用

●組立、設置、清掃の時には必ず軍手を着用すること
素手で作業をすると、ケガの原因になります。

水平に設置

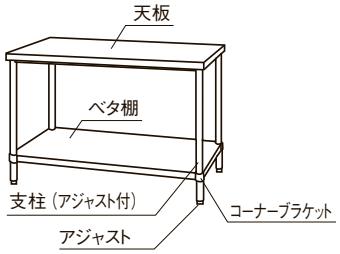
●設置面が丈夫で平らな所に、棚面が水平になるように設置すること
傾いていると積載物が落下して、ケガの原因になります。

表面保護フィルムについて

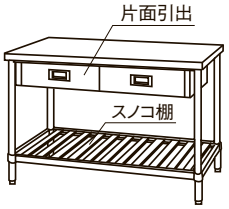
- 製品表面（主要部分）には、透明の「表面保護フィルム」が貼られています。
- 「表面保護フィルム」は、製品のご使用前に必ず剥がしてください。(長期間たつと剥がれにくくなります)
- 製造過程で「表面保護フィルム」に治具跡（シワ等）が残る場合がありますが、製品には影響ありません。

作業台の各部の名前

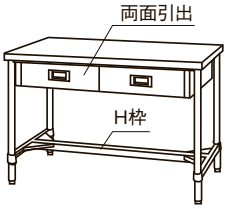
アジャスト付



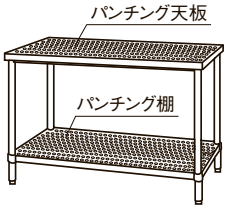
アジャスト付・片面引出



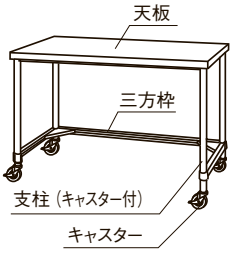
アジャスト付・両面引出



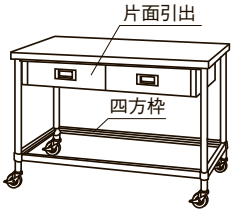
アジャスト付・パンチング天板



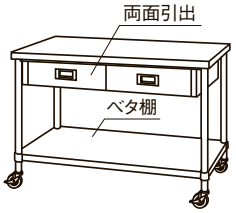
キャスター付



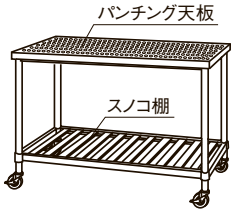
キャスター付・片面引出



キャスター付・両面引出



キャスター付・パンチング天板



作業台の構成パーツと標準付属品

	構成パーツ・標準付属品 / 型式		天　板	棚または枠 (段)	支　柱 （本）	ストッパー （個）	ゆるみ止めビス （本）
	SUS430	SUS304					
アジャスト付	AB型	ABN型	1	1（ベタ棚）	4 （アジャスト付）	4	4
	AS型	ASN型	1	1（スノコ棚）			
	AH型	AHN型	1	1（H枠）			
	AT型	ATN型	1	1（三方枠）			
	AZ型	AZN型	1	1（四方枠）			
	ADB型	ADBN型	1（片面引出付）	1（ベタ棚）			
	ADS型	ADSN型	1（片面引出付）	1（スノコ棚）			
	ADH型	ADHN型	1（片面引出付）	1（H枠）			
	ADT型	ADTN型	1（片面引出付）	1（三方枠）			
	ADZ型	ADZN型	1（片面引出付）	1（四方枠）			
	ADWB型	ADWBN型	1（両面引出付）	1（ベタ棚）			
	ADWS型	ADWSN型	1（両面引出付）	1（スノコ棚）			
	ADWH型	ADWHN型	1（両面引出付）	1（H枠）			
	ADWZ型	ADWZN型	1（両面引出付）	1（四方枠）			
	PAPB型	PAPBN型	1（パンチング天板）	1（パンチング棚）			
	PAS型	PASN型	1（パンチング天板）	1（スノコ棚）			
	PAH型	PAHN型	1（パンチング天板）	1（H枠）			
	PAT型	PATN型	1（パンチング天板）	1（三方枠）			
	PAZ型	PAZN型	1（パンチング天板）	1（四方枠）			
キャスター付	ABC型	ABNC型	1	1（ベタ棚）	4 （キャスター付）	4	4
	ASC型	ASNC型	1	1（スノコ棚）			
	AHC型	AHNC型	1	1（H枠）			
	ATC型	ATNC型	1	1（三方枠）			
	AZC型	AZNC型	1	1（四方枠）			
	ADBC型	ADBNC型	1（片面引出付）	1（ベタ棚）			
	ADSC型	ADSNC型	1（片面引出付）	1（スノコ棚）			
	ADHC型	ADHNC型	1（片面引出付）	1（H枠）			
	ADTC型	ADTNC型	1（片面引出付）	1（三方枠）			
	ADZC型	ADZNC型	1（片面引出付）	1（四方枠）			
	ADWBC型	ADWBNC型	1（両面引出付）	1（ベタ棚）			
	ADWSC型	ADWSNC型	1（両面引出付）	1（スノコ棚）			
	ADWHC型	ADWHNC型	1（両面引出付）	1（H枠）			
	ADWZC型	ADWZNC型	1（両面引出付）	1（四方枠）			
	PAPBC型	PAPBNC型	1（パンチング天板）	1（パンチング棚）			
	PASC型	PASNC型	1（パンチング天板）	1（スノコ棚）			
	PAHC型	PAHNC型	1（パンチング天板）	1（H枠）			
	PATC型	PATNC型	1（パンチング天板）	1（三方枠）			
	PAZC型	PAZNC型	1（パンチング天板）	1（四方枠）			

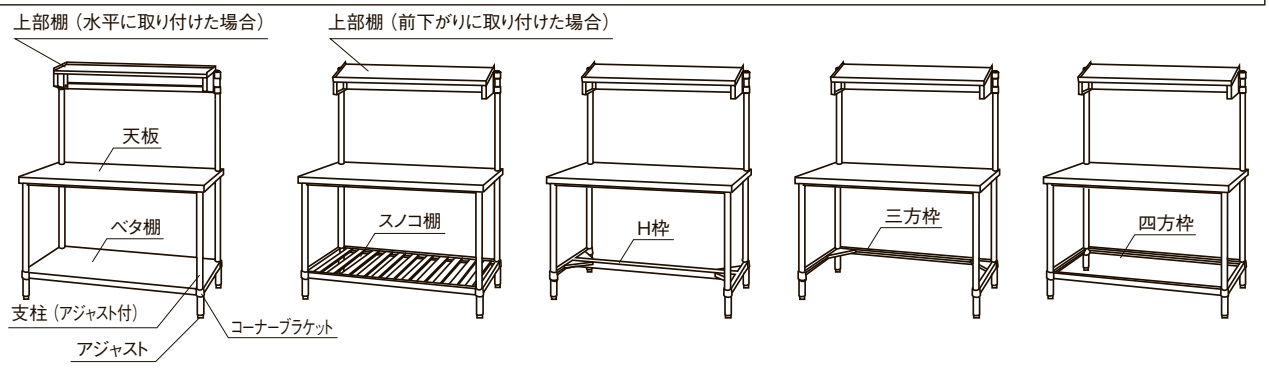
ストッパーとゆるみ止めビスの入ったケースが棚（枠）のケースに同梱されています。

ストッパー

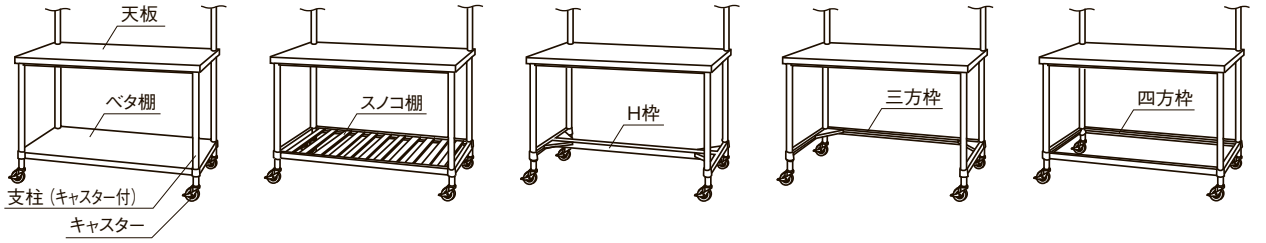
ゆるみ止めビス

システム作業台の各部の名前

アジャスト付



キャスター付

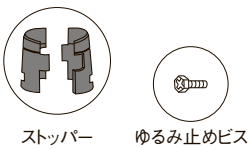


システム作業台の構成パーツと標準付属品

		構成パーツ 標準付属品 / 型式	上部（上部棚部分） 上部棚（組）	上部棚支柱（本）	ブラケット（組）	ブラケットバー（本）	ストッパー（個）	ゆるみ止めビス（本）	ボルト・平ワッシャ・ナット（組）	下部（作業台部分） 天板	棚または枠（段）	支柱（本）	ストッパー（個）	ゆるみ止めビス（本）
SUS430	アジャスト付	SAB型	1	2	1（左右）	2	4	4	8	1	1（ベタ棚）	4（アジャスト付）	4	4
		SAS型									1（スノコ棚）			
		SAH型									1（H枠）			
		SAT型									1（三方枠）			
		SAZ型									1（四方枠）			
	キャスター付	SABC型	1	2	1（左右）	2	4	4	8	1	1（ベタ棚）	4（キャスター付）	4	4
		SASC型									1（スノコ棚）			
		SAHC型									1（H枠）			
		SATC型									1（三方枠）			
		SAZC型									1（四方枠）			
SUS304	アジャスト付	SABN型	1	2	1（左右）	2	4	4	8	1	1（ベタ棚）	4（アジャスト付）	4	4
		SASN型									1（スノコ棚）			
		SAHN型									1（H枠）			
		SATN型									1（三方枠）			
		SAZN型									1（四方枠）			
	キャスター付	SABNC型	1	2	1（左右）	2	4	4	8	1	1（ベタ棚）	4（キャスター付）	4	4
		SASNC型									1（スノコ棚）			
		SAHNC型									1（H枠）			
		SATNC型									1（三方枠）			
		SAZNC型									1（四方枠）			

ストッパー、ゆるみ止めビス、ボルト・平ワッシャ・ナットの入ったケースが上部棚のケースに同梱されています。

ストッパーとゆるみ止めビスの入ったケースが棚（枠）のケースに同梱されています。



作業台（引出なしの機種）およびシステム作業台下部の組み立てかた

お願い

- ●組立作業はできるだけ広くて、平坦な場所で行ってください。
- ●床面に毛布や段ボール等を敷いて、製品を傷つけないよう保護してください。
- ●各部の保護フィルムは、必ずはがしてお使いください。

※引出付の機種につきましては、8〜9ページの「作業台（引出付の機種）の組み立てかた」をご参照ください。

※説明図はAB型を使用しています。他の機種も同様の手順で組み立てることができます。

1 構成パーツと標準付属品を確認します。

構成パーツと標準付属品がすべてそろっているか、確認してください。

【標準仕様の構成パーツ】

詳しくは2ページの「構成パーツと標準付属品」をご参照ください。

天板〈1〉

棚（枠）〈1段〉

支柱〈4本〉
（アジャスト付又はキャスター付）

※ストッパーとゆるみ止めビスは棚（枠）のケースから取り出して、数を確認しておいてください。

※ストッパーの耐熱範囲は−30℃〜+80℃です。

ストッパー〈4個〉

ゆるみ止めビス〈4本〉

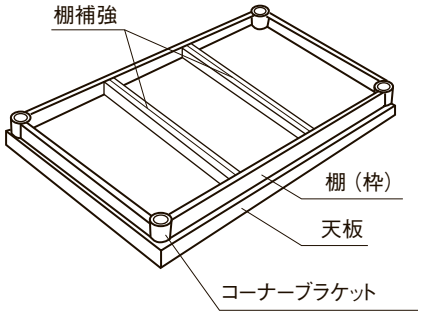
2 天板と棚（枠）をかさねます。

天板を裏返して床に置き、その上に、裏向きにした棚（枠）をかさねてください。

※コーナーブラケットの穴が、天板のネジ穴とぴったり合うようにかさねてください。

※追加棚がある場合は、天板と下段の棚の間に入れてください。

※棚の表裏と順番を間違えないようにしてください。



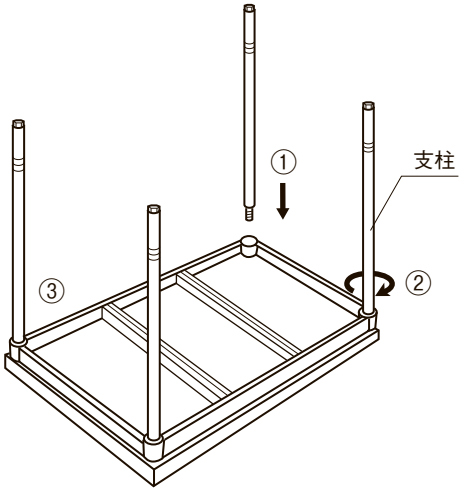
3 支柱を取り付けます。

コーナーブラケットの穴を通して、支柱を天板のネジ穴にねじ込んでください。

※①支柱は垂直にねじ込み、②必ずネジ山の最後までしっかりとねじ込んでください。

※③4本ともねじ込んだらもう一度、1本ずつ締め具合を確認してください。

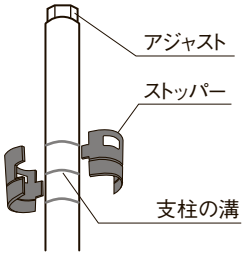
※支柱のネジ部分を傷つけないようにしてください。



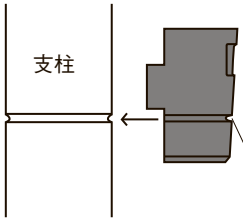
作業台（引出なしの機種）およびシステム作業台下部の組み立てかた

4 ストッパーを取り付けます。

各支柱の同じ高さの溝にストッパーを取り付けてください。



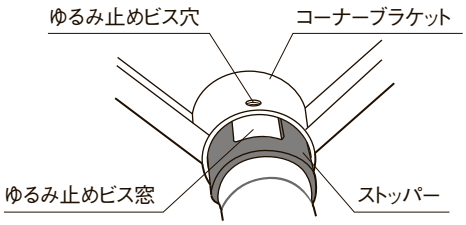
※ストッパーは厚みのある方が完成時に下になるようにして、内側の凸部を支柱の溝に確実にはめ込んでください。



※ストッパーの溝の内側が凸部になっていますので、ストッパーの溝を支柱の溝に合わせて取り付けてください。

※完成時の棚（枠）の上面は溝より約10mm上の位置になります。

※ストッパーのゆるみ止めビス窓をコーナーブラケットのゆるみ止めビス穴に合わせて取り付けてください。（導電仕様の場合は必ず正確に合わせてください。）



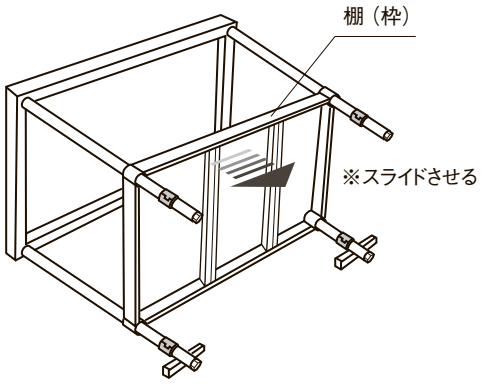
5 棚（枠）を取り付けます。

作業台を寝かせて、4.で取り付けたストッパーの位置まで棚（枠）をスライドさせてください。

※棚（枠）が動かなくなるまでコーナーブラケット部分をしっかりとストッパーにかぶせてください。

※この時、床側の支柱の下に3cm程度の厚みの物を敷いておくと組み立てがスムーズに行えます。

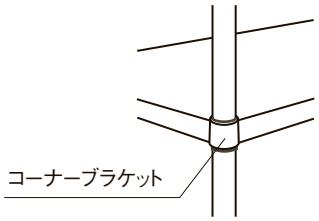
※追加棚がある場合は下段の棚を取り付けた後、4.～5.の手順で下段から順に取り付けてください。



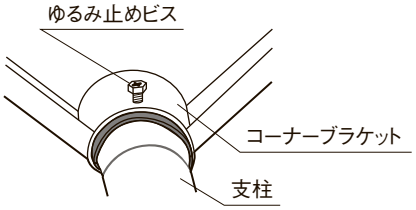
6 棚（枠）を固定します。

作業台を起こして、コーナーブラケット部分を上から数回たたいて固定してください。追加棚がある場合も同じ要領で固定してください。

※必要以上に強くたたかないでください。また、コーナーブラケット以外の部分は絶対にたたかないでください。傷、破損、変形の原因になります。



※ゆるみ止めビスは、先端が支柱に密着するように、しっかりとねじ込んでください。



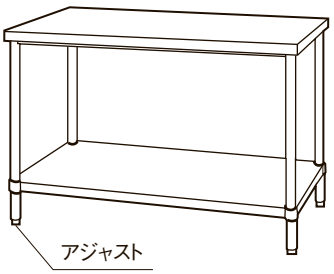
7 設置前に各部を点検します。

最後に、完成品の各部の状態を点検してください。

※各取付部分に「ずれ」や「ゆるみ」が無いようにしてください。

※支柱は垂直に、天板と棚（枠）は水平に取り付けられているようにしてください。

※作業台全体の水平はアジャストで約30mmの調整が可能です。



※保護フィルムをはがしてお使いください。

※製品の汚れはすぐに拭き取ってください。放置するとサビの原因になります。

システム作業台上部（上部棚部分）の組み立てかた

お願い

- ●組立作業はできるだけ広くて、平坦な場所で行ってください。
- ●床面に毛布や段ボール等を敷いて、製品を傷つけないよう保護してください。
- ●各部の保護フィルムは、必ずはがしてお使いください。

※下部の組み立てかたにつきましては、4〜5ページの「作業台（引出なしの機種）およびシステム作業台下部の組み立てかた」をご参照ください。

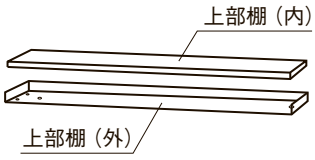
※説明図はSAB型を使用しています。他の機種も同様の手順で組み立てることができます。

1 構成パーツと標準付属品を確認します。

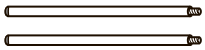
構成パーツと標準付属品がすべてそろっているか、確認してください。

【標準仕様の構成パーツ】

詳しくは2ページの「構成パーツと標準付属品」をご参照ください。



上部棚〈1組〉



上部棚支柱〈2本〉

ブラケット〈1組〉（左右）

ブラケットバー〈2本〉

※ストッパー、ゆるみ止めビス、ボルト・ナットは上部棚のケースから取り出して、数を確認しておいてください。

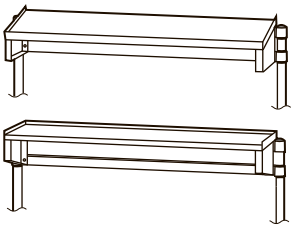
※ストッパーの耐熱範囲は−30℃〜+80℃です。

ストッパー〈4個〉

ゆるみ止めビス〈4本〉

ボルト・平ワッシャ・ナット〈8組〉

※左右のブラケットを入れ替えることで、上部棚の取付角度を「15°前下がり」または「水平」にできます。



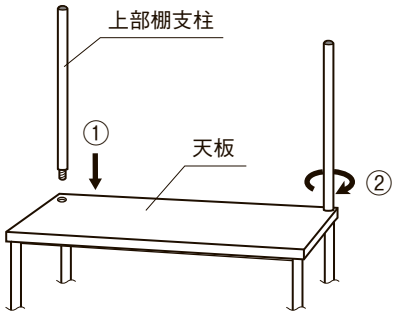
2 天板に上部棚支柱を取り付けます

上部棚支柱を天板表面のネジ穴にねじ込んでください。

※①支柱は垂直にねじ込み、②必ずネジ山の最後までしっかりとねじ込んでください。

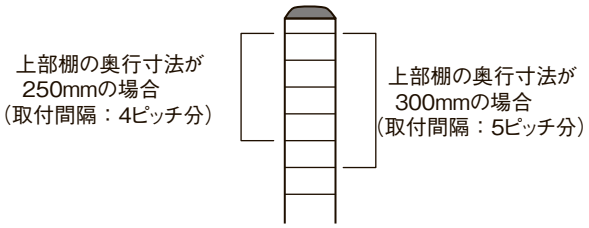
※ 2本ともねじ込んだらもう一度、1本ずつ締め具合を確認してください。

※上部棚支柱のネジ部分を傷つけないようにしてください。

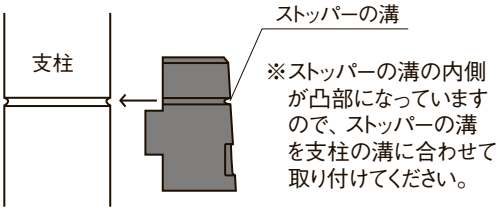


3 下方のブラケットバーの取付位置に、ストッパーを取り付けます。

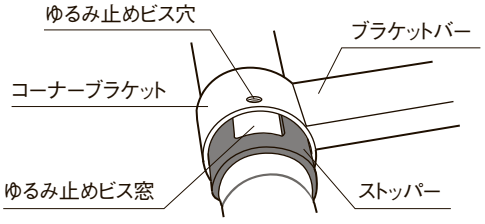
上部棚の奥行寸法（250mm・300mm）によって、ブラケットバーの取付間隔が異なります。上部棚の奥行寸法と取付位置を確認して、下方のストッパーを取り付けてください。



※ストッパーは厚みのある方が完成時に下になるようにして、内側の凸部を支柱の溝に確実にはめ込んでください。



※ストッパーのゆるみ止めビス窓をコーナーブラケットのゆるみ止めビス穴に合わせて取り付けてください。（導電仕様の場合は必ず正確に合わせてください。）



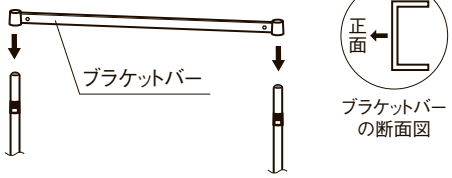
システム作業台上部（上部棚部分）の組み立てかた

4 下方のブラケットバーを取り付けます。

上部棚支柱にブラケットバーを差し込み、コーナーブラケット部分をしっかりとストッパーにかぶせてください。さらに、コーナーブラケット部分を上から数回たたいて固定してください。

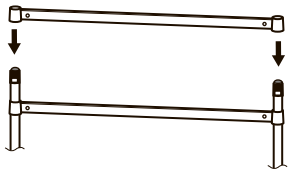
※ブラケットバーは平面側が正面、凹面側が背面になるように取り付けてください。

※必要以上に強くたたかないでください。また、コーナーブラケット以外の部分は絶対にたたかないでください。傷、破損、変形の原因になります。

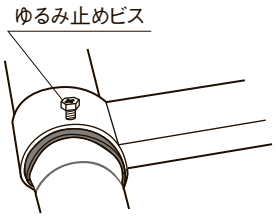


5 上方のブラケットバーをを取り付けます。

3～4と同手順で、上方のブラケットバーを取り付けてください。

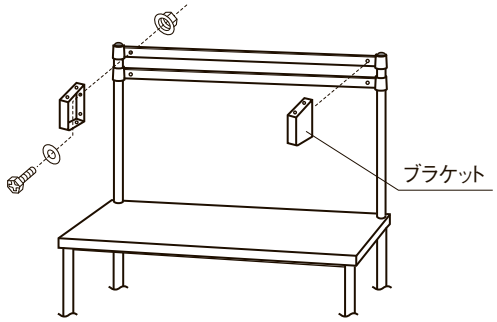


※ゆるみ止めビスは、先端が上部棚支柱に密着するように、しっかりとねじ込んでください。

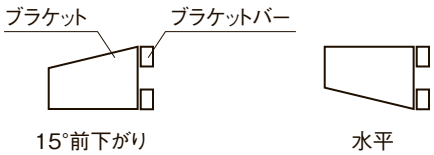


6 ブラケットを取り付けます。

ボルト・ナットでブラケットをブラケットバーに取り付けてください。（各ブラケット2ケ所ずつ固定）

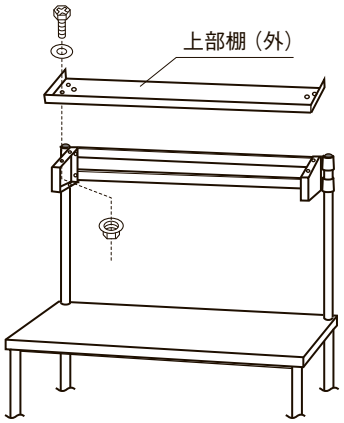


※ブラケットは垂直に、また左右同じ高さに、正確に取り付けてください。
（ブラケットの上端とブラケットバーの上端をそろえるようにしてください）



7 上部棚（外）を取り付けます。

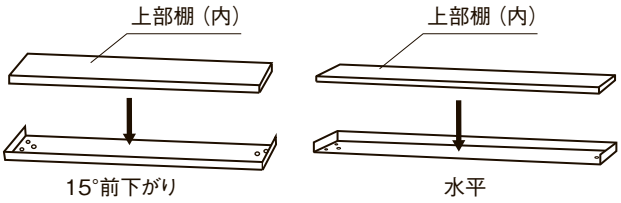
ボルト・ナットで上部棚（外）をブラケットに取り付けてください。（左右各2ケ所ずつ固定）



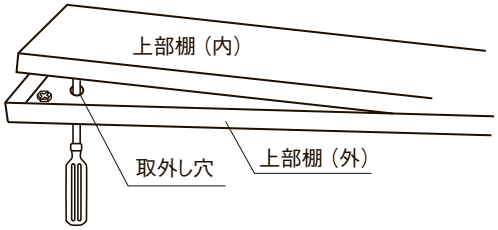
※上図は15°前下がりの場合です。
水平取付の場合は、立ち上がりのある側を背面にして上部棚（外）を取り付けてください。

8 上部棚（内）を取り付けます。

上部棚（内）を、上部棚（外）の内側にはめ込んでください。



※上部棚（内）を取り外す時は、上部棚（外）の取外し穴にドライバー等を差し込んで、上部棚（内）を押し上げてください。



9 設置前に各部を点検します。

最後に、完成品の各部の状態を点検してください。

※各取付部分に「ずれ」や「ゆるみ」が無いようにしてください。

※支柱は垂直に、天板は水平に取り付けられているようにしてください。

※作業台全体の水平はアジャストで約30mmの調整が可能です。

※保護フィルムをはがしてお使いください。

※製品の汚れはすぐに拭き取ってください。
放置するとサビの原因になります。

作業台（引出付の機種）の組み立てかた

お願い

●組立作業はできるだけ広くて、平坦な場所で行ってください。
●床面に毛布や段ボール等を敷いて、製品を傷つけないよう保護してください。
●各部の保護フィルムは、必ずはがしてお使いください。

※引出なしの機種につきましては、4〜5ページの「作業台（引出なしの機種）およびシステム作業台下部の組み立てかた」をご参照ください。

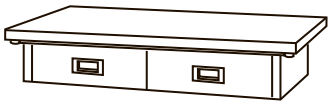
※説明図はADB型を使用しています。他の機種も同様の手順で組み立てることができます。

1 構成パーツと標準付属品を確認します。

構成パーツと標準付属品がすべてそろっているか、確認してください。

【標準仕様の構成パーツ】

詳しくは2ページの「構成パーツと標準付属品」をご参照ください。



天板〈1〉

棚（枠）〈1段〉

支柱〈4本〉
（アジャスト付又はキャスター付）

※ストッパーとゆるみ止めビスは棚（枠）のケースから取り出して、数を確認しておいてください。
※ストッパーの耐熱範囲は−30℃〜+80℃です。

ストッパー〈4個〉

ゆるみ止めビス〈4本〉

2 天板に支柱を取り付けます

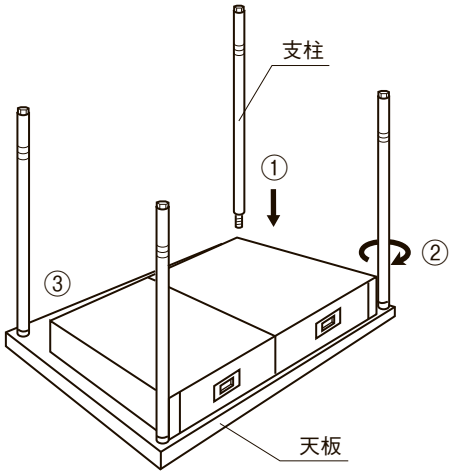
天板を裏返して床に置き、支柱を天板のネジ穴にねじ込んでください。

※①支柱は垂直にねじ込み、②必ずネジ山の最後までしっかりとねじ込んでください。

※③4本ともねじ込んだらもう一度、1本ずつ締め具合を確認してください。

※支柱のネジ部分を傷つけないようにしてください。

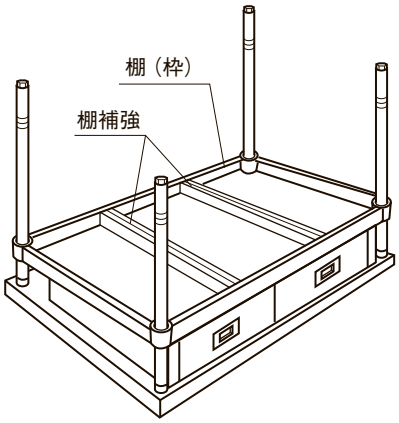
※作業中の引出の抜け落ちが気になる場合は、引出を抜き出しておいてください。



3 棚（枠）を差し込みます。

支柱に棚（枠）を差し込んでください。

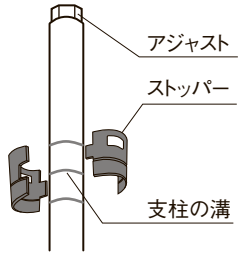
※追加棚がある場合は、下段の棚を差し込む前に、入れておいてください。



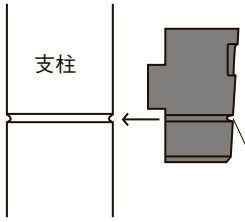
作業台（引出付の機種）の組み立てかた

4 ストッパーを取り付けます。

各支柱の同じ高さの溝にストッパーを取り付けてください。



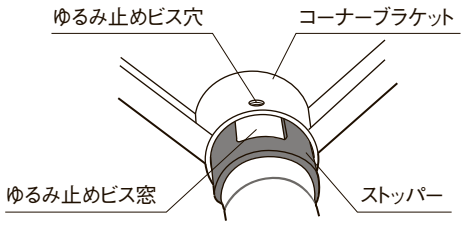
※ストッパーは厚みのある方が完成時に下になるようにして、内側の凸部を支柱の溝に確実にはめ込んでください。



※ストッパーの溝の内側が凸部になっていますので、ストッパーの溝を支柱の溝に合わせて取り付けてください。

※完成時の棚（枠）の上面は溝より約10mm上の位置になります。

※ストッパーのゆるみ止めビス窓をコーナーブラケットのゆるみ止めビス穴に合わせて取り付けてください。（導電仕様の場合は必ず正確に合わせてください。）



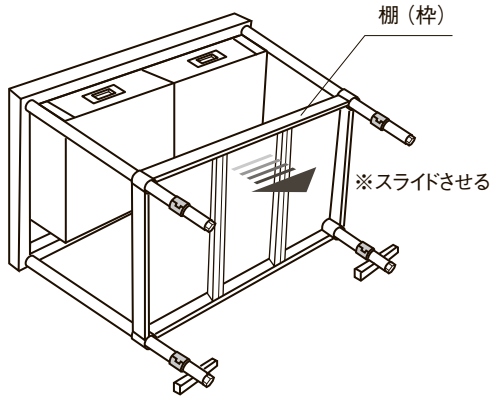
5 棚（枠）を取り付けます。

作業台を寝かせて、4.で取り付けたストッパーの位置まで棚（枠）をスライドさせてください。

※棚（枠）が動かなくなるまでコーナーブラケット部分をしっかりとストッパーにかぶせてください。

※この時、床側の支柱の下に3cm程度の厚みの物を敷いておくと組み立てがスムーズに行えます。

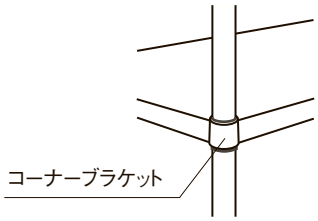
※追加棚がある場合は下段の棚を取り付けた後、4.～5.の手順で下段から順に取り付けてください。



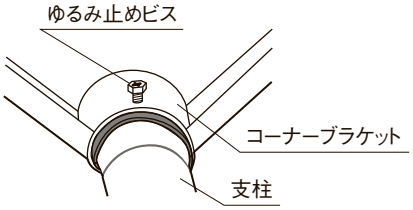
6 棚（枠）を固定します。

作業台を起こして、コーナーブラケット部分を上から数回たたいて固定してください。追加棚がある場合も同じ要領で固定してください。

※必要以上に強くたたかないでください。また、コーナーブラケット以外の部分は絶対にたたかないでください。傷、破損、変形の原因になります。



※ゆるみ止めビスは、先端が支柱に密着するように、しっかりとねじ込んでください。



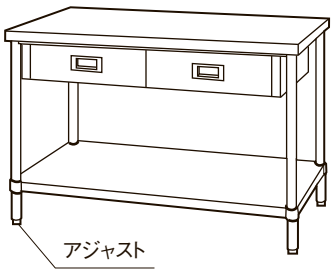
7 設置前に各部を点検します。

最後に、完成品の各部の状態を点検してください。

※各取付部分に「ずれ」や「ゆるみ」が無いようにしてください。

※支柱は垂直に、天板と棚（枠）は水平に取り付けられているようにしてください。

※作業台全体の水平はアジャストで約30mmの調整が可能です。



※保護フィルムをはがしてお使いください。

※製品の汚れはすぐに拭き取ってください。放置するとサビの原因になります。

作業台の耐荷重について

⚠ 注意

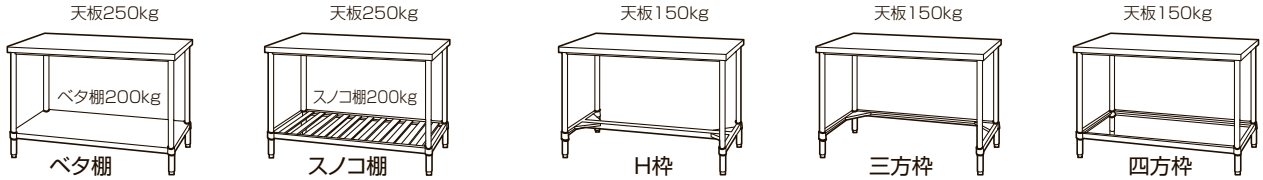
過積載禁止

●天板や棚に物を載せ過ぎないこと

耐荷重の範囲を超える積載は、製品破損や積載物落下によるケガの原因になります。

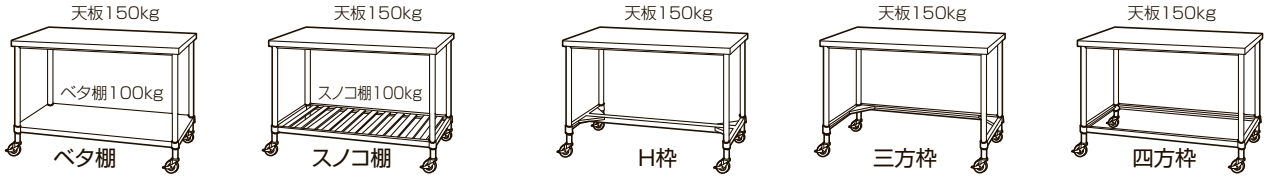
※耐荷重の数値は、すべて製品の自重も含みます。
※耐荷重の数値は、諸条件により異なる場合があります。
※耐荷重の数値は、均等な荷重で静止した状態での数値です。
※組立式の製品は、正しく組み立てが行われている場合の数値です。
●白ヌキ文字の数値は総耐荷重（製品全体の荷重量の上限）を示します。
●細文字の数値は部分耐荷重（特定部分の荷重量の上限）を示します。
●部分耐荷重は“荷重量の合計が総耐荷重を超えない”事が条件です。

作業台（アジャスト付）（標準天板）



総耐荷重 400kg　　総耐荷重 150kg

作業台（キャスター付）（標準天板）

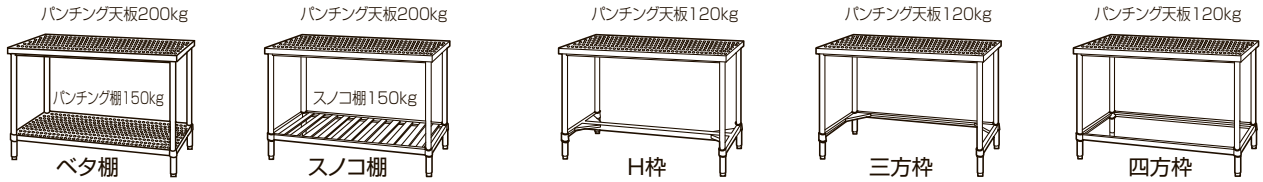


総耐荷重 200kg※1　　総耐荷重 150kg※2

※1：75φのキャスター（標準仕様）装着の場合。
100φのキャスター（オプション）装着の場合は総耐荷重300kgを目安としてください。
（使用条件により異なりますので、ご相談ください）

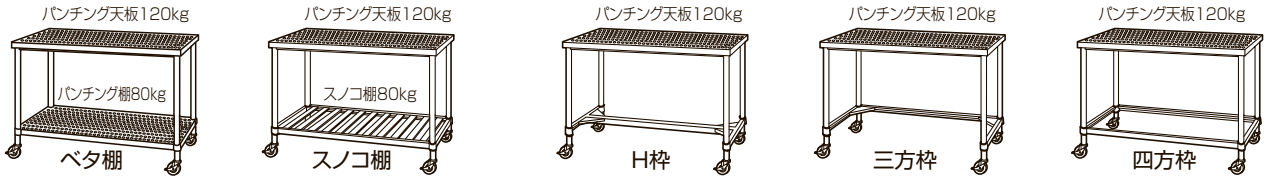
※2：75φのキャスター（標準仕様）装着の場合。
100φのキャスター（オプション）装着の場合も総耐荷重150kgを目安としてください。
（使用条件により異なりますので、ご相談ください）

作業台（アジャスト付）（パンチング天板）



総耐荷重 300kg　　総耐荷重 120kg

作業台（キャスター付）（パンチング天板）



総耐荷重 150kg※1　　総耐荷重 120kg※2

※1：75φのキャスター（標準仕様）装着の場合。
100φのキャスター（オプション）装着の場合は総耐荷重250kgを目安としてください。
（使用条件により異なりますので、ご相談ください）

※2：75φのキャスター（標準仕様）装着の場合。
100φのキャスター（オプション）装着の場合も総耐荷重120kgを目安としてください。
（使用条件により異なりますので、ご相談ください）

システム作業台の耐荷重について

⚠ 注意

過積載禁止

●天板や棚に物を載せ過ぎないこと

耐荷重の範囲を超える積載は、製品破損や積載物落下によるケガの原因になります。

移動禁止

●上部棚に物を載せたまま移動させないこと（システム作業台）

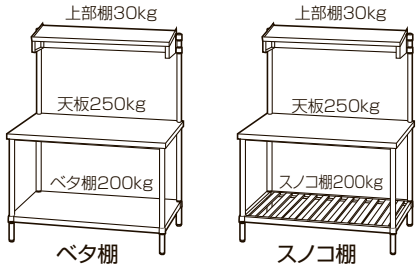
製品の転倒や積載物落下によるケガの原因になります。

※耐荷重の数値は、すべて製品の自重も含みます。
※耐荷重の数値は、諸条件により異なる場合があります。
※耐荷重の数値は、均等な荷重で静止した状態での数値です。
※組立式の製品は、正しく組み立てが行われている場合の数値です。

●白ヌキ文字の数値は総耐荷重（製品全体の荷重量の上限）を示します。
●細文字の数値は部分耐荷重（特定部分の荷重量の上限）を示します。
●部分耐荷重は“荷重量の合計が総耐荷重を超えない”事が条件です。

システム作業台（アジャスト付）ベタ棚／スノコ棚

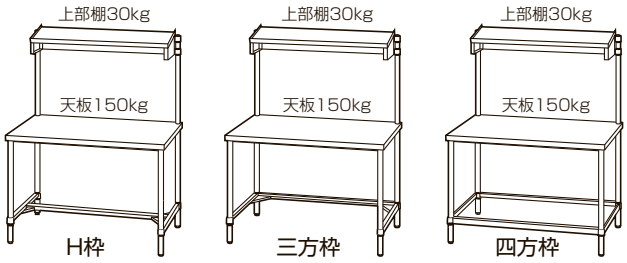
総耐荷重 400kg



●上部棚の部分耐荷重は30kgです。
●天板の部分耐荷重は250kgです。
●下部の棚1枚あたりの部分耐荷重は200kgです。

システム作業台（アジャスト付）H枠／三方枠／四方枠

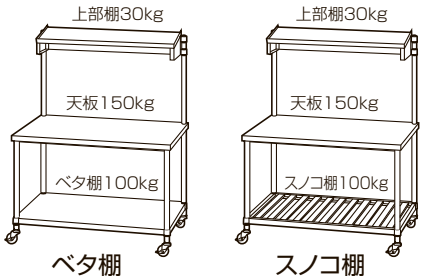
総耐荷重 150kg



●上部棚の部分耐荷重は30kgです。
●天板の部分耐荷重は150kgです。

システム作業台（キャスター付）ベタ棚／スノコ棚

総耐荷重 200kg※1

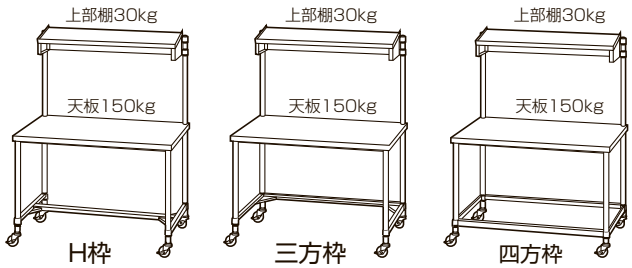


●上部棚の部分耐荷重は30kgです。
●天板の部分耐荷重は150kgです。
●下部の棚1枚あたりの部分耐荷重は100kgです。

※1：75φのキャスター（標準仕様）装着の場合。
100φのキャスター（オプション）装着の場合は総耐荷重300kgを目安としてください。
（使用条件により異なりますので、ご相談ください）

システム作業台（キャスター付）H枠／三方枠／四方枠

総耐荷重 150kg※2



●上部棚の部分耐荷重は30kgです。
●天板の部分耐荷重は150kgです。

※2：75φのキャスター（標準仕様）装着の場合。
100φのキャスター（オプション）装着の場合も総耐荷重150kgを目安としてください。
（使用条件により異なりますので、ご相談ください）